



shaping tomorrow with you

FUJITSU Software ServerView® Suite を使おう！

—シナリオ 6：自動再起動（ServerView ASR&R）—

**対象製品：ServerView Operations Manager
Remote Management Controller(iRMC)**

2013年12月

富士通株式会社

改版日	改版内容
2010. 2	新規作成
2011. 3	ServerView Operations Manager V5.0 に対応
2011. 8	富士通社外公開用の文書フォーマットに変更
2013.12	2013 年 12 月版の FUJITSU Software ServerView® Suite に対応

はじめに

FUJITSU Software ServerView® Suite は、PC サーバ FUJITSU Server PRIMERGY に標準添付されている、サーバ監視・管理ソフトウェアです。FUJITSU Software ServerView® Suite を使用することにより、サーバ管理者は、システム異常時の迅速な対応や原因の究明が可能、またシステムの安定した運用や管理が可能になります。

本資料の目的

本資料は、FUJITSU Software ServerView® Suite を用いたサーバ監視・管理作業の中から、代表的な作業の設定方法を、シナリオとしてご紹介するものです。

シナリオには以下があります。必要に応じて参照してください。

シナリオ No：タイトル	内容
0：ServerView Operations Manager のインストール方法	ServerView Operations Manager / Agents のインストールを説明しています。
1：ハードウェア異常監視① (メール通知等の設定)	ServerView Event Manager による、メール等での異常通知方法を説明しています。
2：ハードウェア異常監視② (ハードディスクの詳細確認)	ServerView RAID Manager による、ハードウェアの異常監視方法を説明しています。
3：CPU 負荷率の監視	ServerView Threshold Manager による、CPU 負荷率の監視方法を説明しています。
4：スケジュール運転	サーバ起動・停止のスケジューリング設定方法を説明しています。
5：CPU 負荷率やメモリ利用率、消費電力などのデータ採取	ServerView Performance Manager によるシステムの負荷状況、およびパワーモニタによる電力消費量の監視方法を説明しています。
6：自動再起動 (ServerView ASR&R)	ServerView ASR&R による、正常起動の監視、および異常時の自動再起動の設定方法を説明しています（ 本書 ）。
7：ハードウェア状態の比較による、異常原因究明	ServerView Archive Manager による、ドライバ更新などのログ採取と、ログの比較によるエラー原因究明の方法を説明しています。

本資料におけるシステムの前提条件

本資料は、以下の環境を前提としています。サーバ機種の違いや、ServerView Operations Manager および ServerView Agents のバージョンの違いなど、異なる環境では操作方法や動作が異なる場合がありますので、御了承ください。

項目	内容
管理サーバ	PRIMERGY RX300 S6 (アレイタイプ)
監視対象サーバ	PRIMERGY RX300 S6 (アレイタイプ)
管理クライアント	FMV-S8245
サーバ OS	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard
クライアント OS	Windows Vista® Business
Web ブラウザ	Windows® Internet Explorer® 8.0
ServerView Operations Manager	Version 5.11.2010 ※最新 Version 6.21.2013 と同様手順
ServerView Agents	Version 5.11.2010 ※最新 Version 6.21.2013 と同様手順

本資料を利用するにあたっての前提知識

本資料を利用するにあたって、以下の技術情報についての知識が必要となります。

- ・ PC サーバに関する一般的な知識
- ・ Windows®、Linux などの OS に関する一般的な知識
- ・ ネットワークに関する一般的な知識
- ・ FUJITSU Software ServerView® Suite に関する基礎知識

本資料を活用するにあたっての留意事項

本資料は、2013 年 12 月現在の情報を元に作成しています。最新の FUJITSU Software ServerView® Suite の情報については、各製品のマニュアルを参照してください。

本資料では、ソフトウェア名称などを、以下のように略称で呼ぶことがあります。

正式名称	略称
ServerView Operations Manager	SVOM
ServerView Installation Manager	SVIM
Remote Management Controller(iRMC)	iRMC

はじめに	3
1. サーバ監視・管理のシナリオ	6
1.1. シナリオ 6：支店のサーバに対する自動復旧機能の設定	7
1.2. マシン構成	8
2. サーバ監視・管理の設定	9
2.1. 支店のサーバに対する自動復旧機能の設定	9
2.1.1. ServerView ASR&R による起動監視とソフトウェア監視	9
免責事項	11

1. サーバ監視・管理のシナリオ

FUJITSU Software ServerView® Suite は、サーバに異常が発生した場合はもちろんのこと、通常の運用時においても、PRIMERGY を用いたシステム運用を助ける様々な機能を持っています。

FUJITSU Software ServerView® Suite を利用して行う監視・管理は、以下の 7 種類に大別できます。

- ・ 異常を通知する（シナリオ 1）
- ・ 異常を検知し、対処する（シナリオ 2）
- ・ ハードウェアの日常的なパフォーマンスを監視する（シナリオ 3）
- ・ 運用タスクの自動化設定（シナリオ 4）
- ・ システムの性能データ監視（シナリオ 5）
- ・ 障害時の自動対処（シナリオ 6）
- ・ 障害原因の究明（シナリオ 7）

本資料では、「障害時の自動対処」のシナリオを用意し、その設定について説明します。

1.1. シナリオ 6：支店のサーバに対する自動復旧機能の設定

FUJITSU Software ServerView® Suite の ServerView ASR&R には、起動監視、ウォッチドッグ監視があります。正常起動やサーバの生死を監視し、異常があった場合は自動的に再起動させるなどの対処を設定できます。

シナリオ 6：

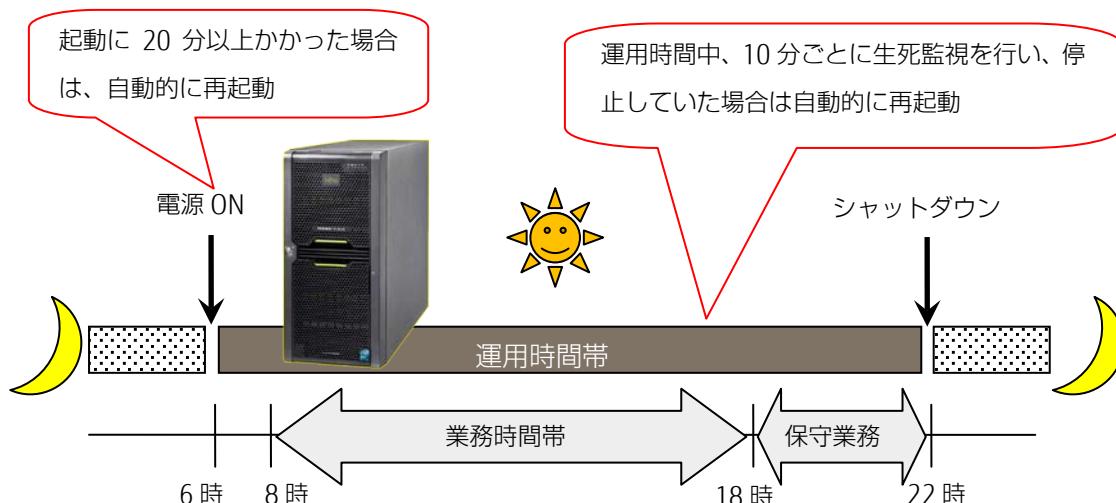
企業 C の支店には数台のサーバが設置されていますが、管理者 Aさんは本社にいるため、管理は主にリモートで行います。Aさんは業務時間内だけサーバが起動するよう、運用時間のスケジューリングを行っています（注：電源のスケジューリングについては、『シナリオ 4：スケジュール運転』を参照してください）。また、業務時間中は多くのユーザが利用するため、正常に起動しなかった場合や運用中に不具合が起こった場合は、Aさんが現場に駆けつけることなく、速やかに復旧することが必要です。そこで ServerView Operations Manager の起動監視およびウォッチドッグ監視機能を利用し、起動に 20 分以上かかった場合や、業務時間内に 10 分以上応答がなかった場合には、何らかの異常が発生したとみなし、自動的に再起動するように設定します。また、再起動の際のアラームをきっかけとして、復旧の確認やイベントログによる原因究明を行います。

■このシナリオで設定する項目

このシナリオでは、ServerView Operations Manager で以下の項目を設定します。

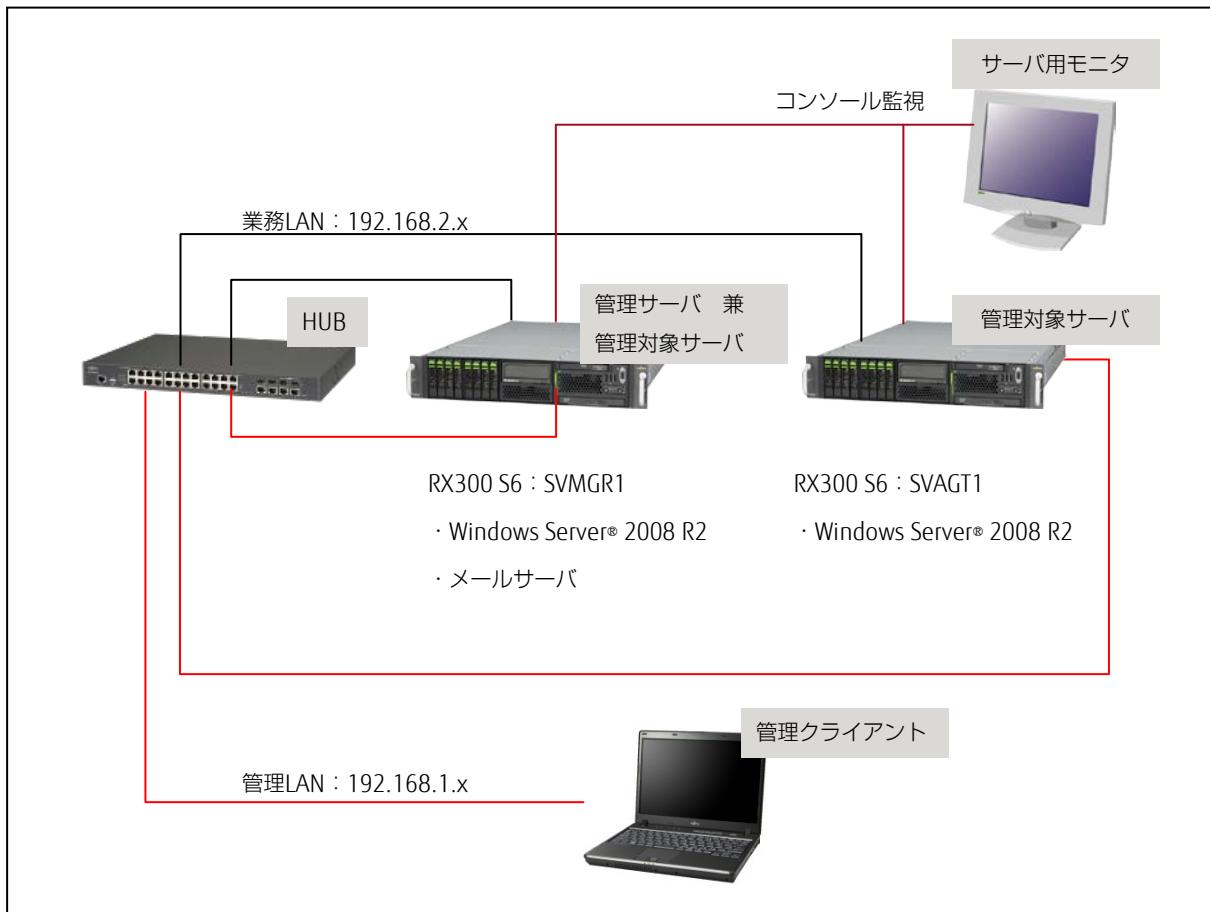
- ・ 電源 ON から 20 分以内に起動が完了しない場合は再起動（起動監視）
- ・ 定期的にサーバの生死監視を行い、10 分以上応答がなかった場合は再起動（ウォッチドッグ監視）

シナリオ 6 の運用イメージ



1.2. マシン構成

シナリオの基本構成となる環境は以下のとおりです。



2. サーバ監視・管理の設定

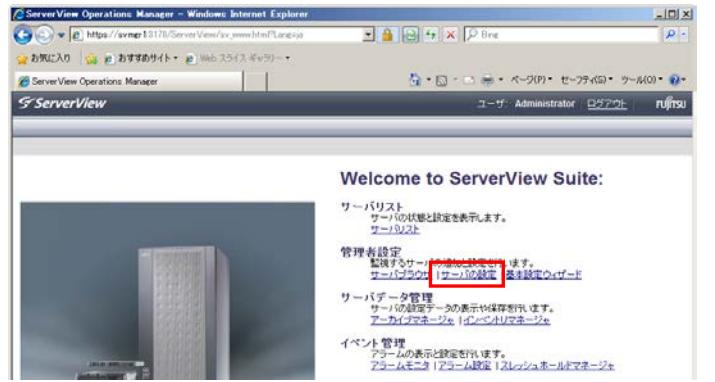
2.1. 支店のサーバに対する自動復旧機能の設定

多拠点にわたるオフィス環境では、管理者がすべての拠点に駐在するとは限りません。このような環境では、起動、停止の自動化による効率化に加え、FUJITSU Software ServerView® Suite の ServerView ASR&R の利用をお勧めします。この機能を用いることにより、サーバの正常起動の監視、および定期的にサーバの生死を確認するウォッチドッグ監視が可能です。また、ServerView ASR&R は、異常発生時に再起動を行う設定が可能です。

2.1.1. ServerView ASR&R による起動監視とソフトウェア監視

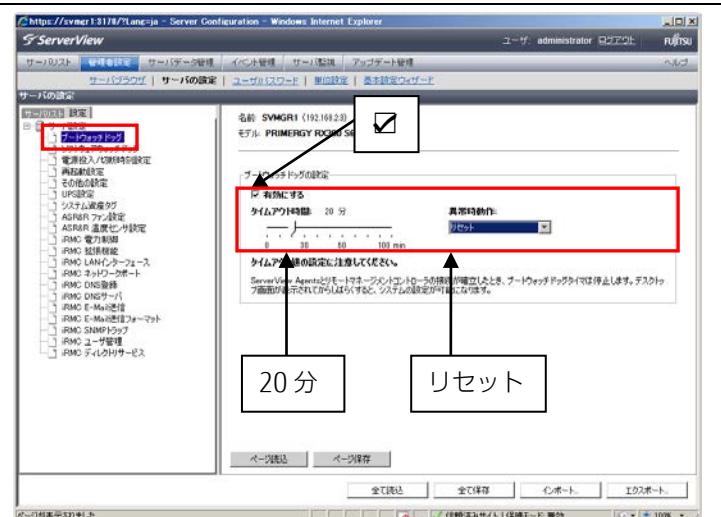
ここでは、ServerView Operations Manager の ServerView ASR&R を用いた、以下の設定方法をご紹介します。

- 電源 ON から一定時間（今回の例では 20 分）が経過しても、監視ソフトウェアが起動しなかった場合に再起動を行う、起動監視の設定
- 運用中、一定時間ごと（今回の例では 10 分）に動作確認を行う、ソフトウェア監視の設定方法

設定対象サーバの選択	サーバの設定画面の表示
1. SVOM のメニューから、「管理者設定」→「サーバの設定」をクリックします。	
2. 表示された画面の「すべてのサーバ」から、設定を行うサーバ名をクリックします。その後、「次へ」をクリックします。	

3. 左のツリーの「ブートウォッチドッグ」をクリックし、起動監視の設定を行います。

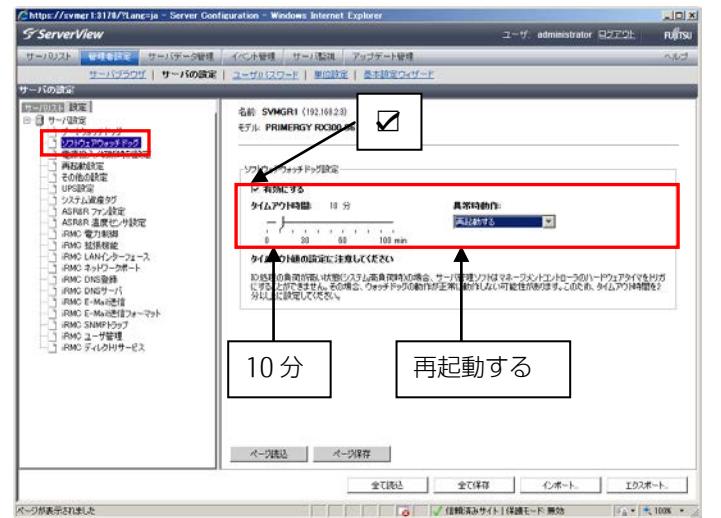
- ・有効にする：
- ・タイムアウト時間(分)：20 分
- ・異常時動作：リセット



4. 左のツリーの「ソフトウェアウォッチドッグ」をクリックし、ソフトウェア監視の設定を行います。

- ・有効にする：
- ・タイムアウト時間(分)：10 分
- ・異常時動作：再起動する

5. 「全て保存」をクリックします。



注意！

ServerView ASR&R で設定した内容は、サーバの BIOS に書き込まれ、OS の有無にかかわらず機能します。OS の再インストールをする場合には、必ずこの機能を初期状態に戻してください（「有効にする」のチェックを外し、「異常時動作」を「継続運転」に戻してください）。戻さなかった場合、OS の再インストールができなくなることがありますのでご注意ください。

免責事項

免責事項

- 著作権・商標権・その他の知的財産権について

本資料は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。個人的に使用する範囲で本書をプリントアウトまたはダウンロードできます。ただし、これ以外の利用（資料の改変、御自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロードなど）については、当社または権利者の許諾が必要となります。

- 保証の制限

本資料について、当社は、その正確性、商品性、御利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、その御利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本書は、予告なく変更・廃止されることがあります。

商標登記について

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- 記載されている会社名、製品名等の固有名詞は各社の商号、登録商標または商標です。
- その他、本資料に記載されている会社名、システム名、製品名などには必ずしも商標表示を付記しておりません。

PC サーバ FUJITSU Server PRIMERGY Web ページ：<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/>

FUJITSU

shaping tomorrow with you